

令和7年度日本カリキュラム学会

自由研究Ⅱ 2

主体的、対話的に深く学ぶ授業の実現と評価

— 道徳科の学びと評価を基点に —

令和7年6月22日

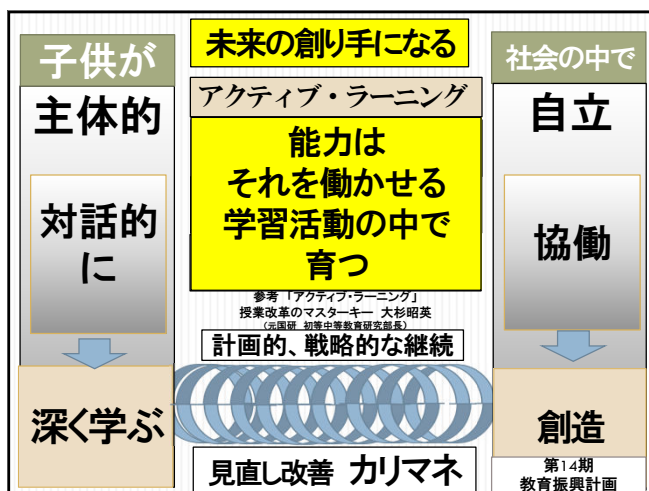
内田 卓雄

本日の発表内容

- 緒言 主体的、対話的で深い学びとカリマネはセット
変わらない授業像 子どもが学ぶ授業は授業観の大転換
- 道徳科は道徳性を育成する特別の教科
 - ・道徳性は内面的資質 個々の内面に存している
 - ・道徳性は個々の内面にある故に、自らが自らの「当たり前」を問い直すところに本質
- 教材を学ぶのではなく、教材を介して自らの道徳性を揺さぶる
 - ・子供が学ぶ授業が前提 個の発露から個々の対話、議論へ
 - ・未熟、半熟、未完成の教科書づくり 教材から学材へ
- 主体的、対話的で深い学び
 - ・対話に持ち込み＝議論する道徳 自己対話を促す
 - ・教師もまた議論の輪に
- 思考は内言。外言と内言は一致しない。評価観察の危うさ
- 重要な自己評価 道徳の評価は問主観で
 - ・自己の変容を認識 振り返りの重要性 書き留める
 - ・子供自身が自己の変容を認識して自己評価＋教師の評価
- 子供の自己評価＋教師の評価 子供の変容を肯定的に

確認

今次学習指導要領の構造



子どもが学ぶ授業で資質能力を育む

資質能力育成に向かう子どもが学ぶ授業があって、カリマネがある

子どもが

主体的、対話的で
深い学びカリ
マネ
CAPD

学校教育目標

資質能力
の育成最大
課題

改善

3800編の指導案
子どもが学ぶ構想は
ほんの数%

子ども自らが学ぶ授業への転換

なぜ、子どもが学ぶ授業にならないのか

昨年度、筑波大学大会で述べる予定だった内容 別添
<http://uchidat.com/report/2curriculum/cull2024.pdf>継承され、当然な
授業観

教師の指導で絶対解に導く

大
転
換

教師の立ち位置

指導者

伴走者・同じ学び手

授業構成

教師の発問

子どもの問いと対話

授業のねらい

解への到達

資質・能力の育成

授業スパン

単位時間

単元構想 年間計画等

評価観

教師が下す評価

学びに生かす評価

子ども自らがよりよく学ぶ授業

教師自身の大改革

本発表 **道徳科の学びと評価を基点**

道徳教育・道徳科の目標
 …よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**

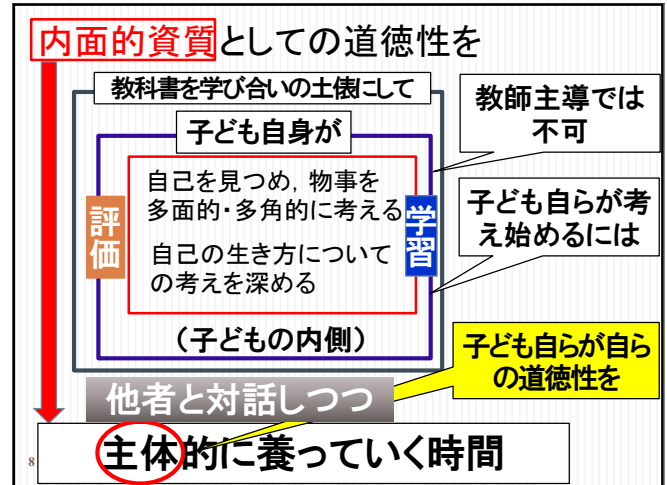
道徳科の内容の捉え方
 教師と児童が人間としてのよりよい生き方を求め、**共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題**

内容項目 **教科書各教材の編集テーマ**

道徳性を養う上での**手がかり**で、…道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したもの

追究し続けるもので、定義(解)はない。 **答えはない**

教師も子どもともに解のない道徳的諸価値を追究しあうところに道徳科授業の本質 **解を武器に導けない**



変わらない **子どもが学ぶ合う授業構想は数百年**

現状 どうしたら、子どもが学び合う授業に改善できるのか

学ぶ側からの授業観へ 見方を変える

教材を学材に

対話を第2の学材へ位置づけ

「主体的、対話的で深い学び」ができる**学習集団作りへ**

自己評価との合体 <間主観>

繰り返りの自己評価に重きを置く

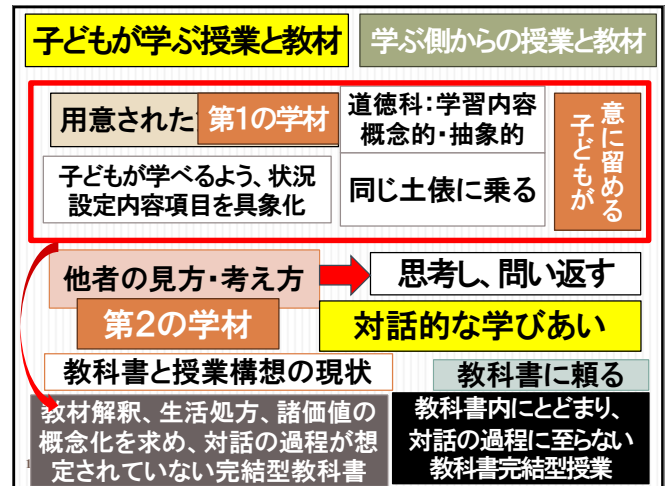
なぜ「理解」がないのかと問う教員

知識観・授業観の転換

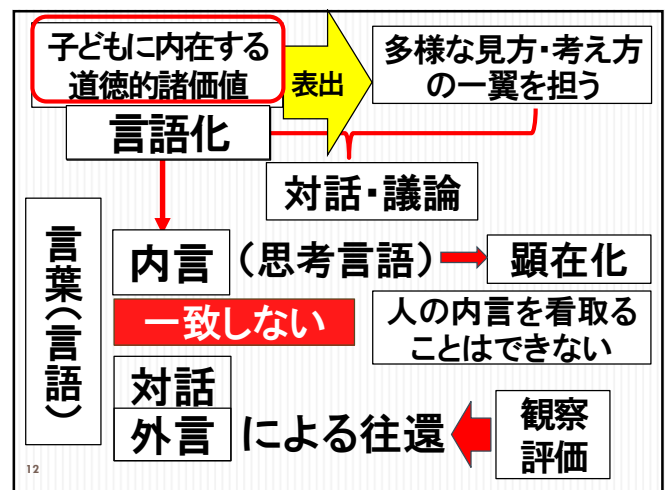
要因は多岐・複雑

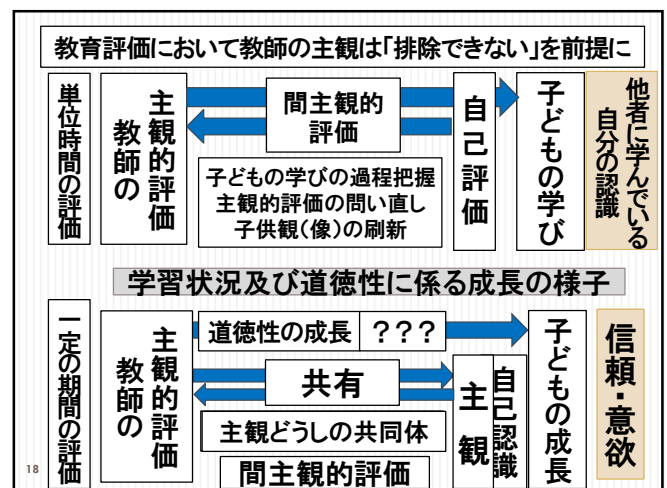
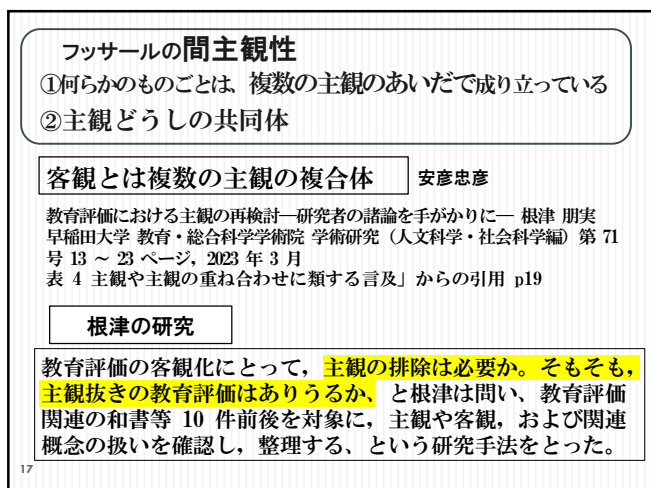
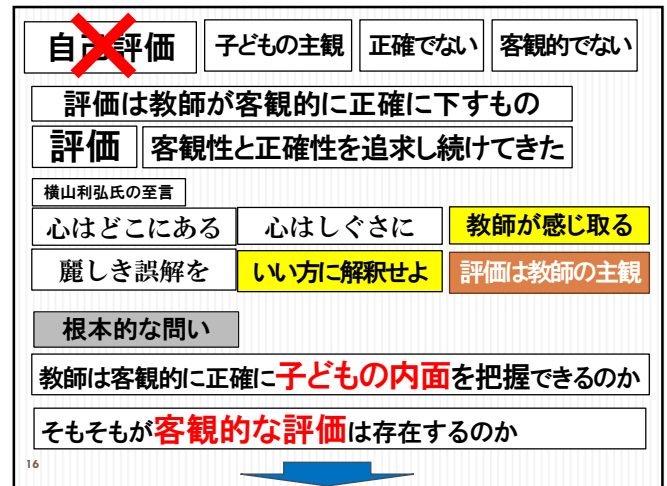
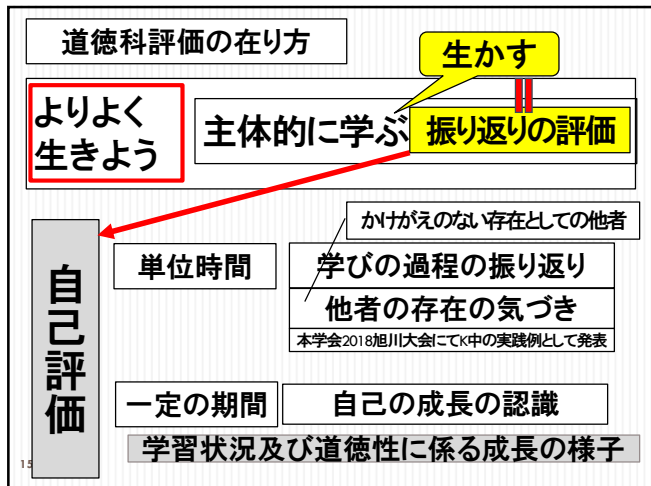
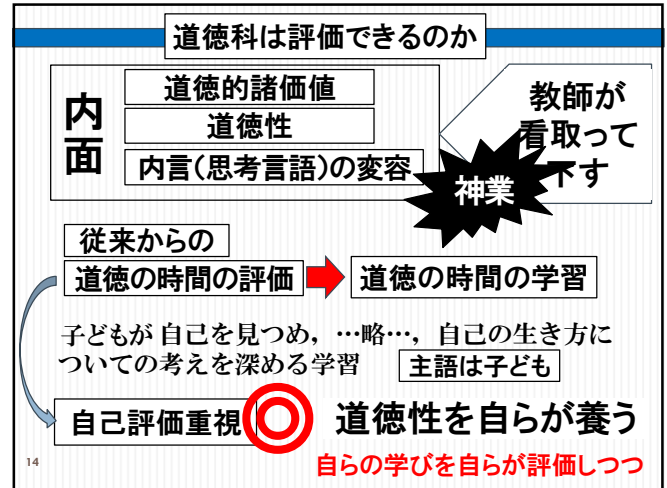
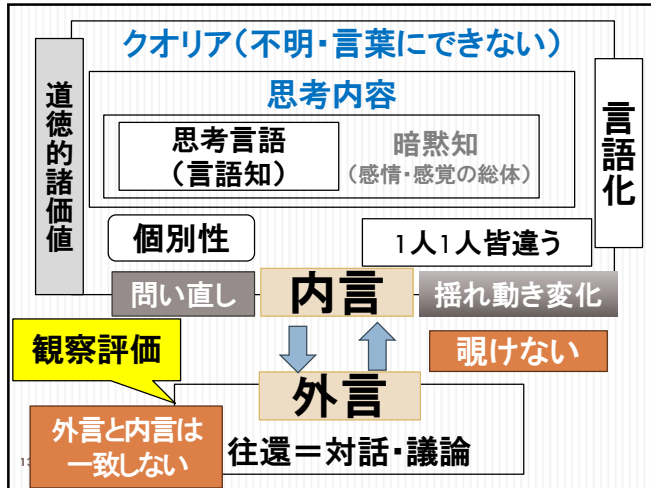
4つの提起

教師の発問によって組み立てる授業



対話を言語的に見ると





間主観的評価への期待

生かす評価の具体として
教師の成長や子どもの意欲への寄与
言語学的な知見から見た正当性
思考過程の文脈化・明瞭化
知識の概念化への寄与

間主観的評価の否定

数値的評価からの疑念(評定不可)
道徳科の特別な評価にのみ通用

19

しなやかで、温かな評価実現のために

子どもがよりよく学ぶために

間主観的な評価に期待したい

20

<http://uchidat.com>